

第1回(仮称)八王子市男女共同参画推進条例制定検討会での参加者からの意見

○参加者1

- ・ 労働関係の相談では、退職や職場の人間関係に関する相談が多く、女性の割合が高い非正規雇用の方からの相談が多い。
- ・ 男女ともに育児や介護と仕事が両立できる環境整備が必要である。ただし整備しても制度を使えなければ意味がなく、背景に意識の問題があるならまずは意識改革の土壌づくりや、また、働き方改革、WLBの実現が必要と思う。

参加者コメント

- ・ 女性の視点からみると、非正規の場合子どもを産んでしまうと、まず仕事が見つからなくなる。だから結婚しない、子どもを持たないという発想が非常に強くなっている。結果少子化が進む。そうではなく、安定した雇用、いつでも仕事につけるんだ、という環境を作っていないと、子どもも持たないし、結婚したくないと今の若者が思ってしまう。

○参加者2

- ・ 社会ではまだ「経営者は男性」という無意識の思い込みがあると感じる。
- ・ 女性が働く場合にはパートナーに同意を得てからという意識が根付いているように感じることもあり、これを是正していれば女性がもっと活躍できると思う。

参加者コメント

- ・ 日本の女性は、パートナーの意見や子どもの育児などに合わせて働かなくてはいけない、自分の人生を決めるのが大きな制約となっている。
- ・ そういう意識は韓国も似ていて、東アジアの特徴。ヨーロッパは随分違うし、同じアジアでもフィリピンも独特。文化とか慣習などが、影響していると思う。

○参加者3

- ・ 地域活動に参加している男女比だと女性の割合が高いが、男性は長時間労働で時間がなく活動できないという面もある。
- ・ 女性差別撤廃条約の締結から35年経ったがなかなか進んでいない現状がある。
- ・ 今の子どもたちのような若い世代は、仕事と家庭のバランスについて関心を持ち始めているので期待している。

○参加者4

- ・ 条例制定後の地域社会がどうなるか気になる。
- ・ 男女というよりお互いに思いやりの心を持っているような環境づくりをしてもらいたい。
- ・ 制度として枠を作った後に、市民が自ら考えてどういう風に生活したいか、意識を含め新しい環境に順応できる仕組みも必要だと考える。

○参加者5

- ・ 教育現場では男女平等になってきたと思うが、性教育の点では不十分だと考える。
- ・ 教える側の教員では女性は子育てと仕事の両立に自信がないから管理職はやらないという人はいるけど、男性にそういう考えで管理職をやらないという人はいない。
- ・ まだまだ女性に子育ての負荷がかかっている現状があると思う中で、まず公務員から直していく必要があるかなと考える。
- ・ 子どもたちの学校生活では男女平等が進んでいる。

○参加者6

- ・ 以前と比べて、教育現場における子どもたちの男女平等意識は向上しているという印象がある。ただ、社会はまだそうになっていない。子どもたちが社会に出てからのことを考えてさらなる意識改革を進める必要がある。

参加者コメント

- ・ 子どもたちが学校から社会に出ても希望を持って生きられる、学校で習ったことで自分のしたいようになれる状態にできるような条例にしたい。

○参加者7

- ・ 将来を考えることも大切だが、過去の歴史はどうであったか、ということも条例に組み込んでほしい。今の時代に制定するなら、これからの100年にふさわしいような、女性の人権を尊重するものであってほしい。
- ・ どんなに素晴らしい条例が制定されても、市歌に「多摩のますらを」と3回も繰り返されているのはどうかと思う。歌というのは意識にもつながる問題であると思う。

○参加者8

- ・ 経営者は男性、会計は女性といったイメージのように、悪気はないが無意識に思い込んでしまう、アンコンシャス・バイアスという問題がある。ポジティブ・アクションとして、潜在意識を意識化させるために、条例としてきちんと言葉でメッセージを発するというのは大事な役割だと思う。

○参加者9

- ・ 教育現場では男女平等意識が進んでいても、子どもたちに関わる大人がどこかで潜在意識を埋め込んでいると思う。意識はすぐに変えられないので、子育て世代に対しての意識改革をする必要がある。

○参加者10

- ・ 女性に育児の負担が大きいというのを日々実感していて、それを男女格差ではなく役割分担と言われるのは腑に落ちないところがある。男性も家族の一員なのだから、子育てして当たり前という社会になってほしい。
- ・ イクメンとかワンオペという言葉も、女性が子育てをするのが前提での言葉なので、無くなってほしいと思う。

参加者コメント

- ・ まだまだ子育てしている最中はプレッシャーがお母さんにかかってくる。
- ・ イクメンという言葉は学生にすごく評判悪い。

○参加者11

- ・ 仕事上においては女性進出率が高い業種ということもあり男女格差は感じないが、いざ女性を採用するとすると、出産やパートナーの転勤など途中で辞めてしまうリスクを考えてしまうこともある。
- ・ 若い世代では、家事の分担が進んでいるが、女性が仕事を続けるにあたっての育児面での問題は大きいと思う。
- ・ 条例で何を理想とするかを示し、事業者のトップが実行することで変わっていくと期待している。